

世田谷区出身でパリオリンピックのフェンシング女子フルーレ団体で銅メダルを獲得された宮脇花綸さんへインタビュー。学校生活とフェンシングの両立やフェンシングの魅力に加えて、今後の目標を語っていただきました。

誰にでも長所が見つかるという



フェンシング選手
みやわき かりん
宮脇花綸さん
Profile

東京都世田谷区生まれ。慶応義塾大学経済学部卒。三菱電機株式会社に所属。5歳の時に姉の影響を受け、フェンシングを始める。種目はフルーレ。2023全日本選手権において個人戦準優勝。パリ2024オリンピック団体戦では、日本フェンシング女子史上初のメダル獲得となる銅メダルに輝く。自ら応募して出演となったクイズ番組において全問正解を達成するなど、「頭脳派」としての一面もあり。

選択肢をたくさん持つておく
—先日のパリオリンピックにて銅メダルの獲得、誠におめでとうございます。改めて振り返ってみて、今のお気持ち聞かせていただいてもよろしいでしょうか。

これまでフェンシングでは女子のメダル獲得がなかったため、このパリ大会でメダル獲得を実現させたいと強く思っていました。チームでメダルを獲れて本当にうれしく思いますし、あとは、周りの方々がたくさん喜んでくださったというのが一番よかったです。やはり3位と4位では大きな違いがあるので、銅メダルをチームみんなで獲得できたというのは、本当に日本のチーム力が表れたと感じています。
—小学校からフェンシングと学校生活の両立がはまりましたが、学生生活のなかで意識されていたことはありますか。
選択肢をたくさん持つておくというの、一ついいことかと思えます。特にア

スリートはけがのリスクもあり、また3代になると次のステージに進むことになります。そうした時に勉強する力を身に付けておくということは自分の将来に役立つのかなと、中学生・高校生の時から思っていました。

勉強はスポーツと同じく、一度遅れてしまつとそこから取り戻すのが大変なので、テスト前だけとかではなくて、毎日継続して、平日頃の授業をしつかり聞いてこつこつやるのが大事なポイントだと思えます。
—宮脇選手が両立を続けていくなかで印象に残っていることはありますか。
一つは、小学校から高校までの一貫校に通っていたのですが、中学生になって今後のことを考えた時、大学受験でフェンシングを中断したり、スポーツ推薦で大学に入学しても自分の好きな学部や勉強ができないのではと思いました。結果として、大学附属の高校を受験して、フェンシングを続けながら大学では自分

が希望する学部に行ける進路選択をしました。中学卒業では友達と泣きながら別れましたが、進学した高校も楽しい学校で、いい決断だったと思います。
もう一つは、高校生から海外遠征が多くなり、1年の半分ぐらいを海外で過ごす生活を送っていたため、学校の授業に出られないことが多くなりました。そこで好きな勉強を諦めてしまうのはもったいないと思いい、友達のを借りて授業のノートを送ってもらい、飛行機のなかで勉強するなど、何とか学業と両立するというのを目標に高校生活を続けていました。

個人戦は、全て自分でなんとかしなければならぬところや、試合展開が苦しい時でも耐えながら流れを自分に持つてこななければいけないところが、難しいなと思います。反対に、団体戦は1人強い人がいてもどうにかなるものではなく、国やチームの力が試されると思えます。また、チーム全員の調子がいいということはないので、みんなが声をかけ、助け合うことで、チームワークを出せるのが日本の強みかなと思います。その意味でも今回の大会は日本が強くなったということも証明できた、いい舞台だったなと思います。
—これからフェンシングをやってみたいという子どもたちに向けて、フェンシングの魅力を教えてください。
フェンシングのいいところは、誰にでも長所が見つかると思うています。フェンシングには階級がなく、スピードが早い選手もいればパワーを武器にしている選手もいます。5歳で始めた

時も、戦術次第では年上のお兄さんたちに勝つたのがすごく面白くてハマりました。スポーツは好きだけだなかなか他の競技では勝てない、という子どもたちこそ体験してほしいなと思います。きっと誰にでもいいところが見つかるので、ぜひみんな気軽にチャレンジしてほしいです。
—今後の目標や意気込みを教えてください。
ロサンゼルス大会での金メダル獲得がパリ大会直後からの大きな目標です。メダルを獲れたのは、すごくうれしかったです。金メダルまでは、まだまだ遠かったのかなという悔しさが残り残りました。あとは、フェンシングを多くの人に知ってもらい、触れてもらって、裾野が広がり、フェンシングをやる子どもたちが増えてほしいと思うので、私も協力していきたいと思っています。

最後に世田谷の子どもたちに向けたメッセージをお願いします。
大人になると、友達と何の約束もなくいつでも会える場所が本当に少なくなつてしまふ、学校生活がどれだけ特別な場所だったのか実感しています。学校生活は大事にしてほしいですし、一生の友達に出会える場なので本当に悔いなく過ごしてほしいなと思います。
私もパリオリンピックに友達が10人ぐらいい応援に来てくれて、一生に一度の瞬間を共有できたのは本当にうれしかったです。勉強も頑張りながら、今の学校生活をきりきりと楽しんでほしいと思います。

